

プログラム

- 開催日時：2018年9月29日（土）9：00～17：30
- 開催場所：神戸国際会議場 1Fメインホール・5階会議室（501・502・504）
- テーマ：「どないするねん、地域での小児包括支援」
- 会長：船戸正久（大阪発達総合療育センター副センター長）
- 副会長：高田 哲（神戸市総合療育センター診療所長・神戸大学名誉教授）

9：00～9：05（第1会場）

開会の挨拶 会長 船戸 正久（大阪発達総合療育センター）

9：05～9：50（第1会場） 座長：船戸 正久

基調講演 田村 正徳（埼玉医科大学特任教授、日本医師会小児在宅ケア検討委員会委員長）

「医療的ケア児の地域包括支援システムの構築に向けて」

10：05～11：55 ※第1会場Aのみ10：00～11：50

一般演題（第1会場A、第2会場B、第3会場C、第4会場D）

12：15～13：00（第1会場） 座長：齊藤 利夫（独立行政法人国立病院機構 刀根山病院）

・教育セミナー：竹本 潔（大阪発達総合療育センター副院長）

「安心して在宅人工呼吸を続けるために」（共催：フクダライフテック株式会社）

13：15～14：05（第1会場） 座長：高田 哲（神戸市総合療育センター）

・特別講演：前田浩利（医療法人はるたか会）

「在宅における小児のend-of-life care 支援」

14：05～16：05（第1会場）座長：位田 忍（大阪母子医療センター）・江原 伯陽（エバラこどもクリニック）

・シンポジウム

「どないするねん、地域での小児包括支援—近畿でのユニークな取組み」

S-1. 小児の地域包括支援 ～乙訓地域での保健所の役割～ 三沢 あき子（京都府山城南保健所）

S-2. 在宅小児かかりつけ医紹介事業 藤井 雅世（藤井こどもクリニック）

S-3. 大阪市重症心身障がい児者医療コーディネート事業—平素のQOL向上を目指して
和田 浩（大阪発達総合療育センター）

S-4. ショートステイ連絡協議会（病院・療育）の実績 舟本 仁一（医療法人弘善会矢木クリニック）

S-5. 奈良親子レスパイトハウスの紹介 富和 清隆（東大寺福祉療育病院）

S-6. 神戸市の学校における医療的ケア—地域の医療機関との連携—

高田哲（神戸市総合療育センター）

16：10～16：15（第1会場）

・次期会長挨拶 森脇 浩一（埼玉医科大学総合医療センター小児科教授）

市民公開講座 <無料>

16：30～17：30（第1会場） 座長：船戸 正久

・講師：平本歩（バクバクの会）

「人工呼吸器をつけて地域で暮らす」



【一般演題プログラム】

<p>【第1会場A 1F】メインホール小児の地域包括支援 I：システム、研修</p> <p style="text-align: right;">10：00～11：50</p> <p style="text-align: center;">座長 中村 知夫（国立成育医療センター） 藤田 位（藤田小児科医院）</p>	
A-0-1. 大学病院設置の小児在宅医療支援センターによる包括的な医療的ケア児支援	小篠 史郎（熊本補助事業 熊本大学医学部附属病院 小児在宅医療支援センター）
A-0-2. 三重県南部における、医療的ケア児者の地域生活支援の向上を目指し ～“毎日”を支え、“万が一”に備えるネットワーク構築～	青木 哲也（済生会明和病院 なでしこ）
A-0-3. 和歌山県における重症心身障害児（者）の在宅医療の現状と課題に向けての取り組み	南部 悟（愛徳医療福祉センター 重症心身障害児者等在宅医療等連携整備事業「海の家」）
A-0-4. 兵庫県における小児在宅医療の現状と取り組み	常石 秀市（兵庫県小児在宅医療委員会）
A-0-5. 病院組織としての小児在宅支援・連携構築の取り組みから見えた院内多職種連携の 重要性と課題	中村知夫（国立成育医療研究センター）
A-0-6. 地域基幹病院における取り組みと今後の課題 ～ソーシャルワーカーの視点から～	後藤 裕美（株式会社麻生 飯塚病院 医療福祉室 ソーシャルワーカー）
A-0-7. 小児在宅医療の医薬品供給に対する薬局の現状とその課題	串田 一樹（昭和薬科大学）
A-0-8. これからの小児在宅医療に向けた、成人在宅医、訪問看護師向け小児在宅医療講習会の 有用性	側島 久典（埼玉医科大学総合医療センター小児科）
A-0-9. 医療的ケア児等を預かる施設における、救急シミュレーション研修の効果	亀井 智泉（信州大学医学部新生児学・療育学講座 特任教授）
A-0-10. 災害時における、人工呼吸器使用児（者）に対する地域支援	下村 千枝子（しもむらクリニック）
A-0-11. 浜松市発達医療センターを利用する医療的ケア児者の家族が持つ防災意識について	杉山 真理子（浜松市発達医療総合福祉センター 友愛のさと診療所）
A-P-1. システム 大阪の医療的ケアを必要とするこどもと家族を支える看護研究会:実践報告	新家 一輝（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）
<p>【第2会場B 5F 501】小児の地域包括支援Ⅱ：医療的ケア児</p> <p style="text-align: right;">10：05-10：55</p> <p style="text-align: center;">座長 森脇浩一（埼玉医科大学総合医療センター） 飯塚忠史（和歌山つくし医療福祉センター）</p>	
B-0-1. 全国の医療的ケア児数について	森脇 浩一（埼玉医科大学総合医療センター）
B-0-2. CLASS（医療的ケア児を地域で支える多職種勉強会）について 第1報	松野 頌平（医療法人メディエフ寺嶋歯科医院、歯と口の機能支援センターみのお）
B-0-3. 小児の地域包括支援	市橋 正子（在宅緩和ケアセンターデイほすびす）
B-0-4. 「歩いて話せる」医療的ケアが必要な子どもの地域支援体制作りについて	解良 深雪（社会福祉法人昴 相談支援センターYeast（いーすと））

B-0-5. 歩けたり、話したりできる医療的ケア児への支援の1例 ～子どもが「場の主体」であることを目指して～ 小谷 英子（訪問看護ステーションちょこれーと）
B-0-6. 登園に至った SMA I 型の4歳男児2例 渡邊 健二（らららこどもクリニック）
B-0-7. 在宅超重症児の暮らしを支えることで見えてきた課題と取り組み 末藤 美貴（三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター）
B-0-8. 重症心身障害児の短期入所事業における在宅呼吸サポートが必要な児者の利用実態 水谷 祐喜子（淀川キリスト教病院 小児科）
B-0-9. 人工呼吸器使用者に円滑な短期入所をしていただくために 石井 達也（ベルデさかい）
B-0-10. 鹿児島市での医療型特定短期入所施設を通じた小児在宅支援の試み 恒吉 由依（医療型特定短期入所施設るる らららこどもクリニック）
B-0-11. 訪問看護ステーションに併設した医療的ケア児対象の児童発達支援事業所の現況と課題 多久島 尚美（訪問看護ステーションちょこれーと。多機能型事業所ちょらんど）
B-P-1. レスパイト 医療的ケア児との生活に不安を抱える家族へのレスパイト入院の有効性 大竹 慎次（埼玉医科大学附属総合医療センター 3階東病棟）
B-P-2. 訪問リハ 地域小学校に入学した重症心身障害児への訪問リハ支援 今村 健一（大阪発達総合療育センター 訪問看護ステーションめぐみ）
【第3会場C 5F 502】小児の地域包括支援Ⅲ：移行支援 10:05-11:55 座長 望月 成隆（大阪母子医療センター） 熊田 知宏（滋賀県立小児保健医療センター）
C-0-1. 地域連携機関と共に作成した小児在宅医療地域連携パスの運用開始後7年の効果と課題 望月 成隆（地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 患者支援センター）
C-0-2. NICUに入院する児の在宅移行支援を推進するための指導者研修プログラム 早川 ひと美（公益社団法人 日本看護協会）
C-0-3. 医療依存度の高い児とその家族に関わる保健師の連携協働のあり方 阿部 大輔（寄居町役場（埼玉県）、元埼玉県立大学大学院博士前期課程）
C-0-4. 医療機関における「役割」の明確化により過疎地域での在宅医療が可能となった 人工呼吸器装着患児 森貞 敦子（倉敷中央病院看護部）
C-0-5. 在宅NPPV導入に3年の期間を要した困難事例 ～地域にコーディネーターが存在したら何ができる？～ 井上 亜日香（神奈川県立こども医療センター 地域連携・家族支援局 退院・在宅医療支援室）
C-0-6. 不適切な養育環境を背景にもつ医療的ケア児の在宅支援 下川 幸恵（九州大学病院 医療連携センター（小児等在宅医療推進事業部））
C-0-7. NICU入院時から始める在宅移行支援について ～その1 医療連携の視点から～ 村山 順子（福岡大学病院 地域医療連携センター看護師）
C-0-8. NICU入院時から始める在宅移行支援について ～その2 相談支援専門員の視点から～ 森山 淳子（認定NPO法人 ニコちゃんの会）
C-0-9. 在宅移行における多職種合同カンファレンスの重要性 増田 裕子（済生会川口病院 小児病棟看護師）

C-0-10. 在宅医療物品の管理方法の工夫と失敗 在宅支援診療所の限界・地域との連携 島崎 亮司(地域医療振興協会 シティタワー診療所)
C-0-11. 成人期医療的ケア患者の支援 ～当院における体制～ 中村 小百合(シャローム病院小児科)
C-P-1. 中間施設 多職種協働で行っている在宅移行のための患者・家族支援 飯島 禎貴(大阪発達総合療育センター 小児科)
【第4会場D 5F 504】小児の地域包括支援Ⅳ：遊び・介護支援、end-of-life care 支援 10:05-11:55 座 長 鍋谷 まこと(淀川キリスト教病院) 岡崎 伸(大阪市立総合医療センター)
D-0-1. 在宅医療を受ける医療的ケア児の地域包括支援システムにおける遊びの役割 -国連子どもの遊びに参加する権利に基づいて- 山本 智子(埼玉学園大学人間学部)
D-0-2. 遊びに取り組んだ訪問看護師の関わり ～家族の声とともに～ 甲田 知恵(認定NPO法人NEXTEP 小児専門訪問看護ステーション ステップ♪キッズ)
D-0-3. 遊びの中に理学療法を ～工夫1つで療育が変わる～ 松瀬 瑞季(認定NPO法人NEXTP 障害児通所支援事業所 ボンボン)
D-0-4. HPSの遊びにおける母親支援について -在宅医療を受ける子どもを持つ母親の「子どもの遊びについてのアンケート調査」から- 西尾 恵美(大阪発達総合療育センター 訪問看護ステーションめぐみ)
D-0-5. 在宅障がい児・者の移動にかかわる介護負担の現状と課題 ～抱っこや外出に関するアンケート調査の結果から～ 長島 史昭(あおぞら診療所新松戸)
D-0-6. 「オーダーメイド抱っこ具の有用性と可能性」第4報 ～適応ケースの特徴と使用時の配慮や工夫～ 長島 史昭(あおぞら診療所新松戸)
D-0-7. 在宅の医療的ケア児および重症心身障害児・者の入浴補助具の研究開発 中村 詩子(北九州市立総合療育センター)
D-0-8. 小児がん患者の終末期在宅ケアの導入の試みと問題点 坂田 尚己(近畿大学医学部小児科学教)
D-0-9. 病院から自宅へ / 自宅から病院へ -小児脳腫瘍患者に対する在宅緩和医療 柳澤 隆昭(東京慈恵会医科大学 脳神経外科)
D-0-10. 当院で関わった小児の終末期患児20人の検討～中間的施設の役割について～ 鷺尾 隆太(チャイルド・ケモ・クリニック)
D-0-11. 在宅での重症心身障がい児の看取りの一事例 -家族の葛藤と医療者の関わり- 脇 暁子(大阪発達総合療育センター 訪問診療科 看護師)
D-P-1. 介護支援 入浴直後におけるカフアシスト実施の有効性の検討 ～入浴によるリラクゼーション効果の併用を試みて～ 小山 明子(埼玉医科大学福祉会 医療型障害児入所施設 カルガモの家)
D-P-2. 介護支援 脊柱側弯の進展捻転修正が酸素化・換気改善に影響した症例 ～重症心身障害児の姿勢管理の試み～ 吉井 牧子(埼玉医科大学福祉会 医療型障害児入所施設 カルガモの家 リハビリテーション部)